

漆による古い家具の補修・再生

a2200619 玉應可奈子

○意図

耐久財である家具は、傷んでしまったりしても、手直しをすることによって長く使い続けることができる。

また、家具は、家族の思い出などと深く関わっていることが多く、長年使っていた物を破棄するのはあまり良い気持ちのする物ではない。

そこで、漆を用いて傷んでしまった古い家具の補修をし、また長い期間使うことができるよう再生させることを考えた。

素材には、実際に私の曾祖母が使用していた本棚を用いることにした。昭和初期の物で、購入してから60年以上が経っており、所々に痛みが見られる。木地呂塗りで仕上げ、側面には加飾を施す。

○工程

- 1, 棚の分解
- 2, 各部材の記録、写真撮影等
- 3, 塗料剥がし
- 4, 破損箇所の補修
 - ・虫食い部分を切断
 - ・臍を切る
 - ・補間用の部材と接着
 - ・成形
 - ・こくそ、錆付けなど
- 5, 木固め
- 6, すり錆
- 7, 下塗り
- 8, 中塗り
- 9, 上塗り
- 10, 加飾
- 11, 組み立て



使用する本棚



分解し、表面の塗料を剥がした状態



補修の工程



接ぎ木した部材の成型(鉋がけ)

○考察・感想

この学校で2年間漆について学び、その技術や特徴、現状など、様々なことを知ることができた。その中で思ったのは、漆という日本を代表する伝統技術を、日常生活の中でもっと身近に感じられるようにしたい、ということだ。家具の補修をやると思ったことも、そこに端を発している。文化財など歴史的価値がある物は、漆によって保存修復作業が行われている。しかし、個人の持つ家具などではあまりその例は見られない。意外だと思ったし、勿体ないことだとも思った。

補修再生はゼロから物を作るわけではなく、それまであった物を分解、手直しし、組み立て直すという作業だが、その結果生まれる物は以前の物とは似て非なる新しい物となり、その点では「ものづくり」に通じるものがあると感じた。

本棚は、分解してみると部材の種類が多く、またそれぞれがある程度の大きさを持っていたので、作業は決して楽なものではなかった。しかし、工程を経て段々と完成が見えてくるにつれ、ものをつくっているという意識と、その充実感を感じることができるようになった。